

特集

時代とともに変化する弔いのかたち。

～お墓を見直してみませんか？

桜咲く丘で、つな

がる想い。

洗練の意匠を纏う美しき聖地

横浜あおば霊苑

YOKOHAMA AOBAREIEN CEMETERY

いつでも逢いに行ける軽快なアクセス。



お車でも、電車でも。様々な交通機関が利用可能です。

東名高速道路「横浜青葉I.C.」より車で約7分

東名田園都市線「青葉台」駅より車で約8分

小田急線「新百合ヶ丘」駅より車で約9分

東急田園都市線「青葉台」駅・「市が尾」駅・

小田急小田原線「柿生」駅より路線バスをご利用いただけます。

無料送迎バス

お彼岸・お盆の時期に無料送迎バスが運行されます。お参りの際に、ご利用ください。



【横浜あおば霊苑概要】

●所在地／〒225-0025 横浜市青葉区鉄町1777-1 ●敷地面積／30,804.12㎡ ●墳墓面積／5,126.48㎡ ●総区画数／3,620区画
●付属施設／管理事務所、トイレ、休憩室、法要室、水場、駐車場 ●駐車場台数／182台 ●事業主／宗教法人 宗英寺 ●事業委託者／日本国土開発株式会社 ●墓地経営許可／横浜市健生活指令第18号

お問い合わせは
「横浜あおば霊苑」管理事務所
☎ 0120-855-223

横浜あおば霊苑

検索

www.yokohama-aobareien.or.jp

詳しくは、ホームページで
ご覧いただけます。



時代とともに変化する弔いのかたち。

くお墓を見直してみませんか？

古

くからお墓は故人と生きている人を繋ぐ大切な役割を果たしてきました。けれども、そのかたちは一つではありません。時代の流れのなかで、あるいは、家族の形態や個人の価値観、ライフスタイルによって変化してきました。今、あなたは、そして、あなたの家族はどのようなお墓を望みますか？

お墓の歴史は？

亡くなった人を埋葬する歴史は古く、日本では縄文時代にすでに確認されていますが、当時はまだ埋葬した故人の上にお墓を建てる文化はありませんでした。天皇をはじめとする支配階級のお墓である古墳が建てられるようになったのが、古墳時代です。これが日本のお墓の始まりといえるかもしれません。

現代のような碑石を建てるお墓が登場したのは、江戸時代中期といわれています。しかし、お墓を建てることのできるのは、一部の権力者や富裕層に限られていました。

庶民に墓を営むことが法的に許されたのは江戸時代後期。さらに、明治に入ると、身分の差に関わらず、すべての人がきちんと葬られる権利を得て、「〇〇家」という家単位でお墓を持つことが許されました。とはいえ、「〇〇家之墓」という「家墓」が広く普及しはじめたのは、戦後のことだといえます。それ以前は、誰かが亡くなったら、その集落の墓地に「人ずつ」埋葬するかたちが主流だったようです。

現在のように誰もが自由にお墓を立てられるようになったのは、昭和30年代の高度経済成長期以降。各地に霊園や墓地が整備されたことや、先祖を思いやる精神的なゆとりが生まれたことで、建墓が促進され、一般化してきたのです。

現代のお墓をめぐる問題点は？

それでは、現代のお墓事情はどうなっているのでしょうか。少子高齢化が進み、核家族が主流になっている今、さらに、未婚率や高齢夫婦の離婚も増加して

います。そのため、お墓の継承者がいないことが大きな問題になっています。

また、都市への人口集中も顕著です。生まれ育った土地で生涯を過ごす人が少なくなった結果、遠く離れた故郷に先祖のお墓がある人も少なくありません。継承者がいたとしても、実際には、お墓参りなどの墓守が難しくなっていることも多々あるのです。

個人の価値観の変化も、お墓のあり方に影響を与えています。継承者がいたとしても、子どもや孫に負担をかけたくないと考える人も増えてきたようです。常識にとらわれない新しいかたちのお墓を求める傾向も強くなっているほか、遠隔地にある先祖代々の墓を、住み慣れた現在の住まいの近隣に移すケースも増えています。

新しいお墓のかたち

お墓は時代によって変遷しており、先祖代々のお墓を守るといふ概念さえ、



わずか100年ほどの歴史しかないことに驚きを感じます。お墓は、それぞれの時代の政治や景気などの事情により変化し、特に家族のかたちと密接に関連しているといえるでしょう。

継承されてきた違う姓のお墓を一つにまとめたお墓「両家墓」という形式のお墓も登場しました。核家族化が進むなかで、一人っ子同志の夫婦などが、それぞれの墓をついにまとめる「両家墓」というケースも増加しています。

墓所のスタイルという観点からは、欧米でよく見られる「芝生墓地」もみられるようになってきました。欧米では芝生にプレートを埋め込む形が一般的ですが、日本では洋型墓石を据えることが多いようです。

近年、急速に増えてきたのが、親族に代わってお寺や霊苑が供養を行っていく「永代供養墓」です。継承者がいない場合のみならず、子孫への負担軽減の面からもメリットがあるからでしょう。

また、家族同様に暮らしてきたペットの供養を望む声も多く、それに応える「ペット墓」を設けている墓所も出てきています。

このように大きく変化してきたお墓事情。けれども、昔も今も亡き人を偲ぶ想いは、変わることはありません。今の暮らしのスタイルに合わせて、さらに未来を思い描きながら、あなたにふさわしいお墓の姿を考えてみてはいかがでしょうか。



故人への想いと心穏やかな日々への願いを込めて、
古くから継承される春の仏事。

今

回は、春の仏事を二つご紹介
します。

一つめは「彼岸会」。「春分の日」
「秋分の日」を中日とし、前後3日を
合わせたそれぞれ7日間を指します。
そもそも「彼岸」とは、サンスクリット
語「パーミター（波羅蜜多）」を訳した
「到彼岸」に由来する言葉。煩惱や
苦しみ、欲があふれるこの世「此岸」に
対し、向こう岸の世界、生死を超越
した悟りの境地に到達するという
意味です。彼岸は西に、此岸は東に
位置するとされています。そのため、
太陽が真東から上り真西へと沈む
「春分の日」と「秋分の日」は、彼岸
と此岸が通じやすくなると考えられ
ました。

一方で、日本には古来、自然や太陽
への信仰があり、この時期に自然の
恵みに感謝をささげる風習があり

ました。これと結びついて、日本独自
のお彼岸の風習がつけられたともい
われています。その歴史は古く、平安
時代初期には仏教的な行事として
「彼岸会」が行われた記録が残ってい
ます。ただ、お彼岸にお墓参りに行く
習慣は江戸時代の中期以降に始ま
ったようです。

また、お彼岸のお供えといえば、
餅米とあんこを使った「ぼたもち」と
「おはぎ」です。古くから、あんこに
使われる小豆の赤色には魔除けの
効果があるとされ、お祝いや季節の
行事などで食べられてきました。
「ぼたもち」と「おはぎ」は、もともとは
同じものでしたが、春は牡丹の花にち
なんで「ぼたもち」、秋は萩の花にち
なんで「おはぎ」と呼ばれるようにな
りました。こうした呼び名に、日本人
の繊細な季節感が反映されているの

も興味深いところ。ちなみに、粒
あんのものを「ぼたんもち」、こしあ
んのものを「おはぎ」と呼び、「おはぎ」の
方が小さめにつくられることが多いです
が、地域による違いもあるようです。
もう一つは「花まつり」です。お釈迦

さまの誕生日とされる4月8日前
後に、全国の寺院では、花々で飾った
花御堂にお釈迦さまの誕生時をかた
どった彫像「誕生仏」を安置し、柄杓
で甘茶をかけて生誕をお祝いします。
甘茶をかけるのは、お釈迦さまが生ま
れた時、龍が天から現れ、甘露の水を
注いだという言い伝えに由来します。
「花まつり」の正式名は「灌仏会」で、
「灌」は水を注ぐという意味です。
日本では、推古天皇時代の606年
に始まったと伝えられ、明治以降、
「花まつり」と呼ばれるようになりま
した。お釈迦さまは今から2500年



ほど前、現在のネパール南境・ルンビニ
で誕生したとされますが、ルンビニに
は多くの花が咲き乱れていたといわ
れます。このエピソードに加え、桜の
季節でもあることから、「花まつり」
の呼び名が広まったようです。

さまざまな花が咲き誇る穏やかな
季節、古くからの仏事にも想いを馳せ
ながら、大切な方々のお墓参りにいら
してはいかがでしょうか。

気品あふれる空間で、
彼の人を想う。
静寂が寄り添っていく。

緑

緑に彩られ清楚な佇まいを見
せる管理棟は、訪れる方々を優
しくお迎えする空間。いつでも気持ち良
くくつろいでいただけるように配慮して
います。

管理棟にはロビーを囲むように、法要
室、休憩・会食室が配置されています。法
事の際はもちろん、お墓参りの休憩にも、
ゆつたりと利用していただけます。

絵画が飾られた広々としたロビーは開
放感があり、上品な趣です。窓の外に目
を向けば、静けさをたたえた水盤が広
がり、清々しい空気が流れ込んでくるよう
な心地よさに包まれます。静寂の中で大
切な方を想う、貴重なひとときを、心お
きなく過ごしていただ
けることでしょう。

横浜あおば霊苑は、
宗旨・宗派を問いませ
んが、管理事務所では、ご要望の宗派に問
合せ、僧侶の手配もし
ております。



春の約束

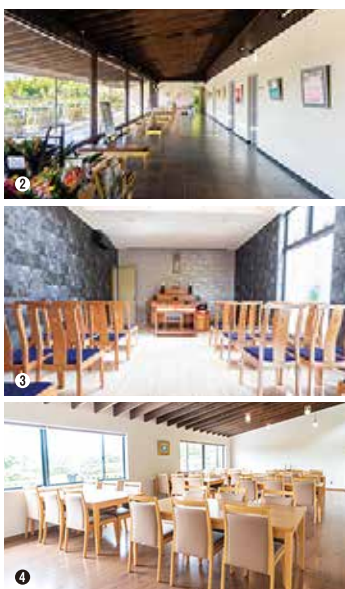
今年のお花見は
母が待つ桜咲く丘です。

先

日、母の四十九日の法要を終え、遺品を整理
していると、母が毎日つけていた日記帳を見つ
けました。見慣れた母の文字に胸が熱くなり、几帳面
に綴られた文章に涙がこみ上げてきました。そして、文
字が乱れがちになつてきた晩年のページには、私たちへの
メッセージが残されていました。

「私も、もうすぐ『永遠の家』に引越すことになり
そうです。そこからお父さんと一緒に、みんなの活躍や
孫たちの成長を見守ることにしましょう。ここに決めた
時、桜が美しく咲き誇っていたことを覚えていますが、
春にはいつもみんなで、あちこちにお花見に出かけまし
たね。今度は、私たちの『永遠の家』にお弁当でも持っ
て来てください。約束して、き
つとみんなで来ると……。待っ
ています。今年の桜も、きつと
きれいよ」

今年の春、母との約束を
守ります。次の春もその次の
春もずっと、会いに行きます。
桜の咲くあの丘の上の『永遠
の家』に……。



① 落ち着いた和の雰囲気につつまれた管理棟
② 絵画が飾られ、水盤からの揺らぎがロビーを包みます
③ 中庭からの柔らかな光がさす法要室「はす」
④ 会食やご休憩にご利用いただける「ふじ」

テラス墓



美しい青空のもと、あずま屋を設けた「もみじ」区



ゆとり区画やテラス墓が配置された区画

モダンなフォルムの中に、
厳かな空気が
流れます。

明 るくのびやかな印象のテラス
墓は、お参りの際にしやがむこ
となく、故人との時間をお過ごし
いただけます。また、中央には、あずまやを
設けておりますのでお
参りの際にもちよつとし
た休憩や手荷物の置き
場所としてご利用いた
だけます。



永代供養・ペット墓



契約者様専用区画ペット墓「りんどう」



永代に亘って供養する永代供養墓「我達人(がほうじん)」

いつまでも
想いがつながる場所を
ご用意しています。

時 代の変化に対応して、代々の
供養を霊苑が代わて行う永代
ご利用の方にはペット専用墓もござい
ますので、ご相談ください。いずれも、
春・秋に、合同法要を事
業主宗英寺により執り
行い、永代にわたり当苑
が供養させていただきます。



墓参代行／清掃代行

お仕事の都合や体調の関係で
お墓参りができない方のために当
苑が代わってお墓参りや清
掃代行を行っています。



苑内各区画の動画と
価格などを
ご覧いただけます。

一般墓



管理棟に近くお参りのしやすい「しらかし」区

安らぎの中に、
故人を想う穏やかな
時間が流れます。

落 ち着きのある伝統的な区画
には整然とした調和が保たれ
ています。横浜あおば霊苑の中でも多
くの区画を持つ一般墓には、洋型・和型
のいずれの墓石もお選び
いただけます。周囲には、
豊かな植栽が施され、
四季折々の風情でお参り
する方をお迎えします。



植栽に囲まれ、落ち着いたエリアの「さざんか」区



芝生墓



美しい芝生が安らぎを深める「さくら」区

芝生の緑が、
訪れる方と故人を
優しく包み込みます。

芝 生の緑につつまれて、ゆとりの
ある配置の芝生墓。降り注ぐ
陽の光を優しく受け止め故人との語
らいを印象深いひと時としてくれます。
特に「さくら」区は、さく
らの大木の傍らに配置
されており、春には、満
開の桜のもとお参りを
していただけます。



墓苑の各所にベンチやあずま屋を設けています

